



放課後児童クラブ通信

クレヨンぽけっと

TEL 0463-45-5722

湘南総合アカデミー
放課後児童クラブ
クレヨンぽけっと
伊勢原市桜台4-25-5



2025年2月10日発行
～ No.82 ～

心温まる

お手紙ありがとうございました

クレヨンぽけっとの基本方針・活動実績に共感、感謝の応援メッセージ

2月上旬、クレヨンぽけっとをご利用いただいているある保護者の方からお手紙を頂きました。内容は、クレヨンぽけっと設立時から大切にしてきた基本方針や具体的な活動実績への期待感や感謝のお気持ちがひしひしと伝わってくる嬉しく、心が暖まる応援メッセージとも言えるものでした。

お手紙

いただいたお手紙の概要をご本人のご了解を得て、紹介させていただきます。



.....
お子様が小学生になるにあたり、最も心配だったのが放課後や夏休みをどの様に過ごすことができるのかでした。

ご自身は朝から1日の仕事をしており、お子様が学童での生活がつまらなかったり、寂しい思いをするのではないかと、貴重な放課後の時間を無駄にしてほしくないとの強い思いを抱いていたそうです。そのような時に「クレヨンぽけっと」の存在を知ることになりました。

その基本方針に共感しつつ、実際に利用している子どもたちの自信あふれる姿に接し、「私の求めていた場所だ！」と直感されたとのことでした。

以来、お子様が様々な経験を通して好奇心を持って創意工夫をしたり、自信や優しさを身に着けるなどしっかり成長していく姿に驚くとともに誇らしい気持ちになったそうです。

お子様の楽しそうな毎日の姿を見るにつけ、仕事にも前向きになることができたとのことでした。

金子先生スペシャルは特に気に入りで、「この日は絶対に行かなきゃならない日だ！」と何日も前から興奮している様子だったそうです。

4月から、また新たな1年間が始まりますが、クレヨンぽけっとの皆さんとの出会い、支援員・スタッフへの感謝の気持ちをこれからも持ち続けていきたいと結んでくださいました。



個々の発達・成長を促す教育の場

クレヨンぽけっとコンセプト

今回のお手紙は、4月から新たにご利用いただく皆様に、クレヨンぽけっとの大切にしているコンセプトや具体的な活動のめざす価値についてご理解いただく良い機会を与えてくださったとも言えることができます。

日本全国に「学童」は存在しますが、いわゆる「預かる」ことが中心で、指導目標や教育課題を意図した計画的、系統的なプログラムや活動を展開しているところは殆ど無いといっても良いかと思えます。

「クレヨンぽけっと」が掲げる「基本方針」はじめ「めざす人の姿」「学習体験プログラム」は新しい放課後児童クラブの先駆的な取り組みであり、保護者はもとより子どもたちにとって極めて有意義なものであると自負しております。

Concept 1

放課後は成長できる貴重な時間

放課後の時間は学年によって異なりますが、1～3年生の場合、午後2時半頃からスタートします。お迎えの時刻を午後6時半とすると一日平均4時間、授業日数が年間200日として1年間で800時間、これに夏休み190時間を加えると何と年間1000時間近くにもなります。

日数に換算すると約42日近くになります。これだけの時間をどう過ごすか、発達盛りの子どもにとっていかに大切かはいうまでもありません。

毎日、自由な時間を思い思いの遊びなどで過ごすのも「学童」の過ごし方の一つですが、自分なりの目標や課題を意識した生活を送ることは低中学年の子どもには難しいと思います。

「クレヨンぽけっと」ではこの貴重な時間をいかに有効に活用できるか、子どもたちの発達・成長の良い機会とできるかを大切にしています。

意図的、計画的な目標と活動内容を掲げた教育機関的な機能を持った放課後児童クラブであることを第1のコンセプトとしております。

支援のスタッフには、小中学校での教員経験者、保育園での保育士経験者、学習塾での講師経験者など豊かな指導や支援の実績ある人材を揃えており、教育機関としての支援体制を整えています。

「学習指導はしません」と大きく掲げている学童も多くあるようですが、「クレヨンぽけっと」では積極的に学習支援、勉強の支援にも取り組んでいます。やる気を育て、学力向上に結びつける指導、支援も大切な活動になっています。



Concept II

「めざす人の姿」で非認知能力・人間力を育みます

「クレヨンぼけっと」は学校の学級と異なり、学校が異なる異年齢の集団になり、発達や個性の異なる子どもたちが集まって生活しています。放置すれば「烏合の衆」になりかねませんが、全員が同じ目標を持って生活することで仲間意識が育まれ、思いやり豊かな家庭的な集団になることができます。

クレヨンぼけっとの良い子が「めざす人の姿」8項目は、開設当初から掲げている目標であり、いまではしっかり根付いた目標になっています。

現代社会では若者たちの「対応力不足」「社会性不足」「人間力不足」が問題視されていますが、いわゆる「非認知能力」と言われる数値化しにくい能力が不足していると言われています。ペーパー試験のように数値化できるものは誰の目にも明らかですが、思いやりや協力性、粘り強さや忍耐力、謙虚さや責任感など大人社会で特に必要とされる能力、いわば人間力をいつ、どこで、どのように育てるかが、大きな課題になっています。

「クレヨンぼけっと」では、小学校低学年のうちから「めざす人の姿」を掲げてこの課題に取り組んでまいりました。決して教条的にならないよう、具体的な生活や活動を通して8項目の実践化、具体化に取り組んでいます。

また、自分自身を振り返り、他の仲間たちの良い点をみつめる視点を育てるために「アワード」という表彰システムもとりにています。保護者の皆様にも、お子様の良い点を見つめていただき、大いに褒めていただけるよう協力をお願いしてまいりました。

今後は「めざす人の姿」8項目を更に具体的に細かく分類し、子どもたちにより分かりやすい目標になる工夫にも取り組んでまいりたいと考えております。



Concept III

「学習体験プログラム」で好奇心・自信・意欲を育てます

「クレヨンぼけっと」の個性的な取り組みの一つが毎月の予定に組まれている毎日の「学習体験プログラム」です。先に述べましたが意図的、計画的、系統的な活動を展開することは「クレヨンぼけっと」の教育的機能の一つであり、子どもたちの幅広い好奇心を呼び覚ますためのカリキュラムとも言えるものです。

例えば、小学校1年生にとって百人一首は難解で文字札を取ることに興味は湧かないのが一般的ですが、ここでは異年齢集団の良さでもある上級生が必死になって札を取りにいく姿が1年生を刺激し、最初は傍観者だった新人が何回か参加しているうちについに1枚をゲットすることができます。すると周囲から万雷の拍手と「おめでとう」「すごいね」の声がかり、本人はこの上ない快感に浸ることになります。

県庁所在地当てカード、歴史クイズ、コマ回し大会、ストラックアウト、吹き矢、鬼ごっこ大会など様々なジャンルをまんべんなく楽しめ体験できるよう工夫したプログラムが用意されています。

上級生がリーダーとなって全体を仕切るなど、活躍の場を広げ、下級生のあこがれとなっていることも「クレヨンぼけっと」の良さになっています。



Concept IV

家庭的で温かな仲間

「クレヨンぼけっと」に見学に来られた方が、皆さん口にするのが「みんな良い子たちですね」

「挨拶がしっかりできますね」「とても優しくて親切なのに驚きました」「みんなとても仲が良くて表情が穏やかですね」です。

最初からこのような対応ができていたわけではありませんが、「めざす人の姿」や「学習体験プログラム」を通して、アットホームで仲間への思いやりが育っています。

いじめや意地悪、悪口や仲間外れなどとは無縁の仲間意識、励まし合ったり、慰め合ったりすることが自然体でできる仲間たちがいます。

Concept V

水泳・サッカー・空手とコラボ

放課後に学習塾やピアノ・運動などの習い事に通うなどが考えられますが、放課後児童クラブを利用する子どもたちにとって、送り迎えの関係からかなりハードルが高いと言えます。

「クレヨンぼけっと」では、隣にある伊勢原スイミングクラブ(イセスイ)で水泳、SFAT ISEHARA SCでサッカー、武心塾の空手(送迎車あり)に通うことができます。

現在も多くの子どもたちが、「クレヨンぼけっと」からそれぞれの活動場所に通って、それぞれの課題やグレードアップをめざして頑張っています。



Concept VI

安心してお仕事に専念できるための子育て支援の施設です

お手紙を頂いた保護者の方も書かれていましたが、お子様が充実した学校生活、楽しい放課後の生活ができていの中で、成長の姿を実感できれば、安心してお仕事にも専念でき、社会的にも充実感を味わうことが可能になります。

「クレヨンぼけっと」ではそのためにも、子どもたちの毎日が楽しく充実したものになるようコンセプトⅠ～Ⅴについて大切にしております。

異年齢の集団生活に上手く適応できない、苦手なお子様につきましても可能な限り対応させていただいておりますが、より専門的な支援や個別対応が必要なため、必ずしも十分な対応とは言えません。保護者の方が安心してお仕事に専念することが難しい状況とも言え、大変心苦しく感じており、今後の大きな課題であると考えております。

この4月からは、定数を増やし、新たな施設の建設に着工するなど新しい「クレヨンぼけっと」の歴史が始まります。初心を忘れることなく、コンセプトⅠ～Ⅵを今後とも大切に歩んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。